

浜 私 幼

(公社) 横浜市幼稚園協会 協会報 No.284
加盟園保護者の皆さまへ

公益社団法人 横浜市幼稚園協会 発行
電話 045 (534) 8708
<https://www.kids-yokohama.or.jp>
編集 横浜市幼稚園協会広報部
発行者 清水 純也
印刷所 グランド印刷株式会社



- 第 60 回 横浜市幼稚園教育研究大会
- 第 62 回 神奈川県私立幼稚園教育研究横浜地区大会

『未来に向かって 子どもが主役の幼児教育を』

令和 5 年 1 月 21 日 (土) 神奈川県民ホール 大ホールほか

令和 4 年度、第 60 回横浜市幼稚園教育研究大会、第 62 回神奈川県私立幼稚園教育研究横浜地区大会が神奈川県民ホールのライブ及び YouTube 配信他で開催された。全体会では、運営委員長である木元茂神奈川県私立幼稚園連合会会長に続き実行委員長の清水純也横浜市幼稚園協会会長から挨拶があり、続いて来賓を代表して大久保智子横浜市副市長、山中毅神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課長から祝辞を頂いた。

教育研究大会 参加者数

	参加者数	参加園
全体会	2,070 名 他、保護者参加	192 園
分科会	1,963 名	191 園



横浜市幼稚園
教育研究大会
全体会講演

子どもがワクワク、 保育者がワクワク、 保護者がワクワクを広げよう

講師 つるの剛士氏 (タレント) 大豆生田啓友先生 (玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授)

つるの剛士氏は皆さんも御存知のとおり「ウルトラマンダイナ」のアスカ隊員役を好演し、その後もTV番組や音楽活動を精力的にこなす多彩な才能の持ち主であり、2男3女の父親でもあります。

玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授の大豆生田啓友先生は今回進行役を務められました。

お二人は、今から約18年前の当時NHK教育テレビ「すくすく子育て」の共演がきっかけで現在も親交を深めています。

つるの氏は、子育て関係の仕事をする中で、これからの時代は「子どもがキーワード」になると確信し、幼稚園教諭二種免許、更に保育士資格を取得されました。

教育実習中は、芸能界で培ったギターやウクレレ等のキャリアをフルに活用して、子ども達を楽しませることに努めました。同時に、自分も楽しむことがステージでも教育・保育の現場でも大切と実感しました。自分の好きな事や特技を教育・保育の現場に活かすことは大事だとも言っています。

毎日のように徹夜して実習日誌を書き、土日は仕事でたいへんでしたが、子ども達からもらった手紙に癒され励まされて、それは今も宝物になっているそうです。

つるの氏 趣味は将棋、釣り、サーフィン、バイク等と多いです。その中でもサーフィンのような「自然遊び」が特に好きです。それは計算通りにいかないことや下手をすると命の危険につながり、危機管理やリスクヘッジも身体を通して感じる事ができるからです。自然の上にデジタル社会が成り立っていることを、子ども達に教えていかなければならないと思います。

育児休業を取る発端は、仕事で寝る暇もないくらい多忙を極め、更に4人目が生まれる頃、夫婦喧嘩が増え始めました。そこで一大決心をして2か月間休む



ことにしました。育児休業中の育児経験では、家事や育児の大変さがわかり、沢山のストレスも味わいました。そうすると、妻にかける「ありがとう」の言葉の質も全く変わりました。育児休業は子どもに関わる期間というより妻の理解者となる期間だった気がします。その後も妻のサポートをしたことで妻との関係が修復できたのだと思っています。因みに当時芸能界で初めて育児休業を取りました。

大豆生田先生 つるのさんが、「これからは、子どもがキーワード」と言われて嬉しく思いました。保育者は子どもとの関わりの他に保護者との関わりも重要です。悩みを抱えている保護者もいて、園の先生に支えてもらえた時、自分のことをわかってもらえたと感じた時に、子どもに対して優しい自分になれる。人は自分に余裕がないと子どもにも優しくなれない。それは、園の先生も同じだと思います。

つるの氏はいつか幼稚園を造ろうと考えていましたが色々な園を訪問する中で、自分の構想をはるかに超えた素敵な園が既にあり、そこで子ども達が育っていることを目の当りにしたそうです。今は構造的な事に自分が入って歯車を回していくことが大切だと気づきシフトしています。

大豆生田先生) 今年4月からこども家庭庁が発足します。乳幼児期の幼稚園・認定こども園・保育園の役割は、幼児教育・保育が地域を巻き込み、子どもを大切に作る社会を作ることです。子どもの声を聞き、政策決定に反映させることを始めている自治体も出てきました。



サークルタイムの経験は大事だとよく言っていますが、3歳児に無理のない範囲で実践を試みた当協会主催の保育力・キャリアアップ研究講座に参加した保育者の事例では、「3歳でもこんなに人の話を聞いたり、自分の意見を言ったりするのか」という手ごたえがあったそうです。このような事から子ども主体の遊び保育は、単なるのびのびではなく主体性を発揮して知的な興味関心が育ち合いにつながっていることが証明されています。幼い頃の経験は、その後の成長に何らかの影響を与える可能性があるという事から、家庭はもちろんですが、同時に先生の仕事も益々重要になると思います。



つるの氏) 興味のないことをやっても全く身にならない。何か一つでも興味をもったところから「何でこうなるのだろう?」と感じ、勉強していく。遊びの中から学んでいく、探

求していく教育が大切な気がします。

子ども達の個々の魅力、考えている事、感じている事、目がキラキラしている瞬間、魂がうずいている瞬間に如何に保育者として気付けるかがとても大切だと感じています。

お二人が応援し、昨年夏に公開された幼児教育保育のことを題材にした映画「こどもかいぎ」から

つるの氏) 子ども達の自由な発想がすごすぎて全く手も足も出ない。如何に大人が色々な概念にとらわれて想像力が乏しいのか、と感じました。子どもの頃からコミュニケーションをとることがこれからの時代に益々大切になると感じます。僕らの今までの教育、育ってきた環境で一番欠けていた点です。

大豆生田先生) 子どもは言葉にしなくても色々なこ

とを考えたり感じたりしていて、すごいなと感じました。担任教諭は「今まで先入観にとらわれていた、今までも子どもの声を聞いていたと思っていた。しかし、しっかり聞いていなかったことがよくわかった。」と言っています。

つるの氏) 今まで子どもを子どもとして見ていた。とても反省しました。

つるの氏はまとめとして、「コロナ禍で世の中や生活環境がガラッと変わってしまい、益々幼児教育・保育の社会的価値のありがたさを感じました。医師や看護師が大変な中、その子どもは幼稚園・認定こども園・保育園が預かっています。医師や看護師があれだけ働くことができた影には、縁の下で各園が大変な思いをしていたことに気付かされました。その時、改めて自分の子育てや保育のあり方を学生として学び直し、幼児教育・保育の世界は尊くて素晴らしい、社会的価値のある世界なのだと感じました。乳幼児期が子ども達にとって今後の人生形成の上で重要な時期であることを肌で感じました。

これだけ素晴らしい世界があることを社会に発信できる人はあまりいません。子どもが幼稚園・認定こども園・保育園の時代が終わると、次の小学校時代の大変さがやって来ます。保護者は当事者でなくなるとその時代の問題意識がなくなっていくという現実があります。長い目で見て幼児教育・保育の時期はとても重要だということを、我々が社会に発信していく役割があるのだと痛感しました。そのため少しでも頑張れるように学んでいる最中です。」と締めくくり、二人の対談は終了しました。

(広報部 港南区 幼保連携型認定こども園

森が丘幼稚園 安藤安雄)

Special talk

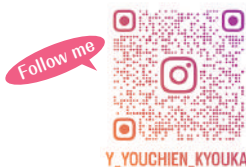
幼稚園や認定こども園の先生になりたい人へのメッセージ

つるの氏と大豆生田先生の対談はホームページからご覧いただけます。



CHECK!

ダイジェスト版は協会の公式 Instagram から



横浜市幼稚園協会 [公式]
保育就活情報

249園が加盟している協会だけでしか発信できない情報を投稿しています♪

第1分科会

特別研究
委員会「1」

テーマ ● 遊びの育つ環境とは？

助言講師 ● 宮里 暁美 先生 (お茶の水女子大学アカデミック・プロダクション特任教授)

開催方法 ● Zoom

今年度の特研1は「遊びの育つ環境とは」というテーマで、保育について語り合う中から環境について考えました。

子ども達は、保育室や園庭など様々な場で遊びますが、その環境に少し変化を加えたり、何か置いてみたりすることで遊びが広がったり、深まったりするのではないかと事例を持ち寄り、グループごとに話し合ってきたことを分科会で発表しました。

- 年少の事例から「環境を少し変えたことによる変化」
- ・色水遊びからのアプローチ 色水を使った新たなおもまごと
 - ・運動会の練習で見た刺激から変化を見た他学年の興味
 - ・ツマグロヒョウモンの飼育環境から見える子ども同士の会話

- 年長の事例から「悩みから始まった環境の工夫」
- ・生き物の飼育 子ども達の興味をよりにてるように設置場所・凶鑑などを置く工夫
 - ・玩具の片づけを「おきっぱなし」にすることで見えてくる興味の持続と遊びへの深まり

○夢の幼稚園 (動画)

11月に対面で行った、グループごとに考えた「夢の幼稚園」の様子を動画にまとめて参加者に見ていただきました。

「子どもが始めたことを大切にする」「それについて保育者で語り合う」ということを講師の宮里暁美先生からうかがい、今後も子どもの遊びと環境についてちょっとした変化も含め、工夫していきたいと共通理解することができました。(港北区 金港幼稚園 芝崎 恵子)

第2分科会

特別研究
委員会「2」

テーマ ● 子どもとの対話を対話しよう ～子どもの主体性を尊重した保育の充実を目指して～

助言講師 ● 三谷 大紀 先生 (関東学院大学教育学部こども発達学科准教授)

開催方法 ● Zoom (ウェビナー)

毎回の研究委員会では、「対話」をキーワードに掲げ、参加者が今取り組んでいることや取り組みの写真等を持ち寄り、語り合ってきました。また、子どもや同僚と対話を促進する手法を学び、実践し成果を持ち寄り、「子どもの主体性を尊重した保育」の充実を目指してきました。

研究大会当日、前半は3名の先生の実践提案がありました。発表内容は「どうする？保育環境」、「Hくんとのかかわりから考えたこと」、「子どもと共に作る保育と行事」、全てに共通していたことは子どもに寄り添い、声を聴きながら保育を行っていることでした。後半は参加者からのQ & Aに対し、実践提案者と三谷先生によるミニシンポジウムを行いました。

3つの事例のように、子どもの声を聴き応答すること、その内容について大人同士も対話することが重要です。大人も保育を楽しみ、子どもや同僚と対話しながら、保育の充実を目指していきたいです。

(神奈川区 幸ヶ谷幼稚園 木元 健太郎)



第3分科会

特別研究
委員会「3」

テーマ ● 気になるあの子の視点から保育を見直してみませんか ～どう見取る？どう支える？どう繋ぐ？～

助言講師 ● 吉川 和幸 先生 (国立特別支援教育総合研究所 研修事業部総括研究員)

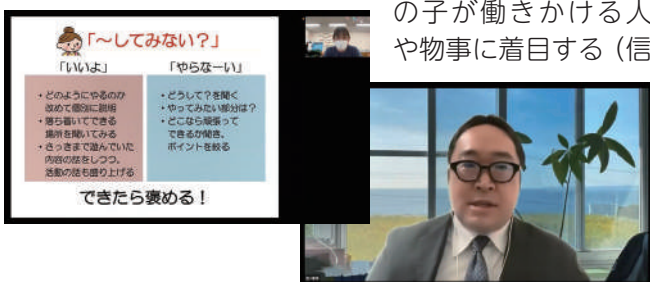
開催方法 ● Zoom (ウェビナー)

特別研究委員会3では1年を通して「見取る、支える、繋ぐ」の3つのテーマをもとに、参加者が日頃の保育を振り返り見直してきました。そこで、子どもの姿を保育者の視点で捉え気になるところに着目する(欠損モデル)のではなく、子どもの視点から捉え、その子が働きかける人や物事に着目する(信

頼モデル) 見取り方を学びました。そして子どもたちが安心して自己発揮できるよう支え、人や物事にどう繋いでいくのか、グループに分かれて個々の実践をもとに研究をしてきました。

研究発表では3名の先生が、「子どもの興味関心に寄り添い環境を整えていった実践」、「子どもと粘り強く向き合い折り合いを付けていく方法を模索した実践」、「園での当たり前の保育を子どもの姿から見直していった実践」の発表を行いました。この発表をきっかけに、参加者の皆様が子どもの姿の捉え方、関わり方、保育や環境のあり方をポジティブに見直すきっかけになると幸いです。

(保土ヶ谷区 初音丘幼稚園 渡邊 結)



第4分科会

鶴見支部

テーマ ● 保育に活かす自然体験活動

助言講師 ● 増田 直広 先生 (鶴見大学短期大学部保育科講師)

開催方法 ● 対面 (県民ホール小ホール・山下公園)

鶴見支部では、増田先生の指導の元「NEAL 自然体験活動リーダー資格」を取得した保育者が中心となり、約70名の参加者と「身近な自然を体験するワークショップ」を行いました。8つのグループに分かれて小ホールから山下公園に移動し、葉っぱを使った「はっぱっぱジャンケン」やガラスマウントを使った「森のスライドショー」、お皿の上に思い思いに盛り付けを楽しんだ「森のレストラン」など体験しました。移動の際もアイスブレイクを兼ねた「自然しりとり」をしたり、冷えた身体を温めようと木の実を使った「どんぐりリレー」をするなど、臨機応変に活動を紹介しました。その後は、3園から自然遊びの様子ので発表があり、増田先生よりこうした自然体験活動の意義について

のレクチャーがありました。当日は天候にも恵まれ、久しぶりの体験活動に笑顔あふれる分科会となりました。(鶴見区 鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園 鮫島 良一)



第5分科会

中支部

テーマ ● 「そうだったんだ！」園で共有したら、色々な事が見えてきた！ ～支援の必要な子との関わりから、園全体での理解と保育者の強みへ～

助言講師 ● 高橋 毅 先生 (YMCA 健康福祉専門学校講師)

開催方法 ● 対面 (県民ホール大会議室)

中支部では、2020年度から「特別支援」についての研究会を行ってきました。3年目となった今年は、中支部全園にアンケートをご協力いただき、その結果についても触れながら、より実践的に子どもたちを理解する方法を参加園からの実践報告や、講師から提示されたものを各園で実践し研究会で報告しながら、グループワークを行ってきました。実践から見えてきた子どもの姿に加え、1人の子を見つめる園内の先生のそれぞれの見方の違いなども分かり、園内で「その子について」を共有することが担任の気持ちの中で自分の強みとして自信に繋がるということもわかりました。教研大会では、講師の高橋先生のこれまでのご経歴からのお話や、幼稚園教育要領第3章にも触れ、ケー

スカンファレンス、評価シートを利用したアセスメント、個別支援計画の大切さをお話いただき、当日、会場で行った参加者アンケートでは86%を超える先生方より参考になったという回答をいただきました。子どもの対応についての研修はあっても、担任の悩みや不安についての研修がないと考え、この研修を行ってきて「担当している職員からの報告はあっても個々の先生方の悩みまでは分らなかった」というご意見をいただき嬉しく思いました。また、対面での実施ということで検温や手指の消毒、座席への案内など対策を取り、係の先生方のお働きによりスムーズな運営ができました。

(中区 横浜学院幼稚園 佐藤 章江)

第6分科会

南支部

テーマ ● マスク着用保育における、視覚的コミュニケーションの充実 ～心ふれあう表現あそび～

助言講師 ● 松家 まさこ 先生 (淑徳大学教育学部こども教育学科准教授)

開催方法 ● Zoom (ウェビナー)

感染対策を続けて3年目、子ども同士や先生とのふれあいが減ってしまった、子どもたちの表現が乏しい、気持ちがわかりにくいなどの悩みが多く寄せられていました。

そこで南支部では、表現あそびをコミュニケーションツールとして利用し、マスクをつけた日々の中でも、先生と子どものコミュニケーションの充実や表現力の向上を目指し、研修を進め、また改めて、人と応答する楽しさや、つながり合う喜びを味わえるような保育の大切さも再確認しました。

子どもたちの豊かな表現を引き出すためにどう工夫してゆくのかわかるのか。参加していただいた皆さんが、心でふれあい楽しむ方法をたくさん得て、子どもたちの心が

ワクワクできる保育に生かされれば幸いです。

(南区 横浜白山幼稚園 寶積 章磨)



第7分科会

旭支部

テーマ ● 子どもの姿を語り合おう！ ～みんなの話を聞いてみよう～

助言講師 ● 星 早織 先生（和泉短期大学専任講師）

開催方法 ● Zoom

旭支部では今年度のテーマを「子どもの姿を語り合おう ～みんなの話を聞いてみよう～」とし、オンラインでの研究会を重ねてきました。コロナ禍以前は会場を区内の園で持ち回りにし、研究会の最後に園見学もさせていただいていました。この時からグループディスカッションの時間を多めにとり、テーマを決めて年度末にグループやペアで発表をしていました。そしてコロナ禍の中、オンラインでもこれまでの流れを大切に子どもの姿を語り合う時間を中心にしてきました。今回発表していただいた3名の先生も、保育者同士の心を開いた保育の語り合いをして、多様な異なる視点やまなざしと出会ってきました。講師の先生からも「保育を語り合うこと」、「保育を『省察』する姿

勢が形成されていること」などをお話いただき、改めてその重要性について学びました。

（旭区 上白根幼稚園 岩崎 濯）



第8分科会

港北支部

テーマ ● 関わりの難しい子どもへの援助を考える ～ひとりひとりの子どものより良い成長を目指して～

助言講師 ● 鈴木 由美子 先生（臨床心理士・公認心理師・横浜市幼稚園協会子育て教育相談室相談員） 開催方法 ● Zoom

私たち保育者は日頃から「クラスの中で関わり方が難しいな、この子のこの行動にはどう対応したらよいのだろう」と悩んでいます。そして、子どもたちひとりひとりと向き合い、寄り添いながら、その子のより良い成長を願っています。港北支部では保育者が自分ひとりで悩まず、他園の先生と情報共有や意見交換をし、講師の先生の助言を受け学びを深めることで援助の仕方を皆で探っていくことができるよう、この研



修会を令和2年度から継続してきました。発達障害の基礎的な知識を学ぶとともに、各園から持ち寄った事例を検討することで、発達の問題や保護者との連携、保育者の関わり方、クラス的环境設定など様々な視点で観察し、より多くの目で対応を考えていくことができるよう努めました。この研修を通し、「関わりが難しい」と感じる子は私たちに「問題提起をしてくれる子」と捉え、全ての子どもたちが園生活を楽しめるよう快適な環境を整えていくことが大切であることを学びました。また、保育者が園で過ごす子どもたちの「第2の愛着対象者」であることを忘れず、「ホットなハートとクールなマインド」でひとりひとりに寄り添っていきたいと思います。

（港北区 プリンセス幼稚園 岩島 倫子）

第9分科会

瀬谷支部

テーマ ● 五感を使った自然遊びが子ども達に与える影響

助言講師 ● 高橋 良寿 先生（五感教育研究所 所長）

開催方法 ● オンデマンド（学びトレック）

普段使いなれている牛乳パックや段ボールといった廃材ではなく、子ども達の身近にある自然の素材を、子ども達自らが採取して自分達の遊びに生かす。以前は当たり前のように目にしていた風景の中に、実は子ども達が成長していく過程で非常に重要な経験や体験が隠れています。当初はぎこちなく参加していた教員達が、回を重ねていくごとに意欲的に参加をするようになりました。子ども達へ自然遊びを実践し、その反応に喜びと驚きを感じたからです。教研大会当日は、ビデオ発表となり、自然遊びの面白さを直接お伝え出来ませんでした。視聴された方の今後の教育・保育活動への参考になれば幸いです。

（瀬谷区 幼保連携型認定こども園 みなみ幼稚園 相澤 始）



新たな春にむけて ～かわるもの・かわらないもの～

横浜市幼稚園協会子育て教育相談室 相談員 大森由紀



新しい年を迎えて早2か月が過ぎました。10年ぶりともいわれる大寒波に見舞われた1月、暦の上では春を迎えても厳しい寒さが続いた2月。みなさん、いかがお過ごしだったでしょうか。今年の3月の気温は平年並みか高い予想とのことですから、このお便りがお手元に届くころには、少しずつ、春の訪れを感じられるようになっていくことを期待しています。

さて、名実ともに春を迎えると、お子さんたちは次の学年へと歩みをすすめていきますね。その胸のうちは…期待でワクワク！ちょっぴり不安でドキドキ？といったところでしょうか。親御さんの胸のうちはいかがですか。年少さん・年中さんのご家庭なら、誰と同じクラスかな…？先生は誰になるのかな…？とか。年長さんのご家庭なら、小学校はどんな感じかしら…？お友達は…？先生は…？など。そこに共通するのは“うちの子、うまくやれるかしら（うまくやれたらいいな）”という思いでしょうか。春の日差しとはうらはらに、ワクワクばかりもしてられないのが、この時期の心模様かもしれません。

もし、次の年度への不安がムクムクとわいてきたら、一度たちどまって、一年前のこの時期のお子さんの姿を思い返してみてください。毎日の生活の中では気づかなかったけれど、そういえばあんなことができるようになった、気が付けばこんなこともするようになっていた、ということが、お子さんひとりひとりに、きっとあるはずですよ。

幼稚園時代の子どもたちの成長というのは、大人からすると一見単調にも思えるような、日々、繰り返される営みのなかで生まれ、機が熟したときに開花していくもののように思います。4歳なら4歳、5歳なら5歳、6歳なら6歳の、好奇心を刺激するようなかかけが幼稚園の教育の中にはたくさんつまっています。それらの刺激をたっぷり浴びて吸収し、成長していく心と体の土台となるのが、“おはよう”から“いってきます”、“ただいま”から“おやすみなさい”まで、日々繰り返される家庭での営みといえるでしょう。寒く日も短い冬をくぐりぬけ、草花も目覚め始める春は、生活リズムを整えるところから始めてみてはいかがでしょうか。

新しい学年・新しい学校へと変化を伴う時こそ、こうした日々の安定した営みが効果を発揮します。園生活で

いえば、年少さんが年中さんになっても、園までの道のり・園についてからの朝のお仕度・お昼のお作法・帰りのお仕度、といった大きな枠組みはあまり変わらないですよ。変わるの、お教室の場所と一緒に過ごすお友達と先生、でしょうか。先生は変わらない場合もありますし、お友達も引き続き同じクラスということもありますね。このように、変わらないことと変わることをわかるように整理し、学年が変わっても変わらないことに意識を置いて心の準備をしていくことが、安心して次年度に臨むためのちょっとしたコツといえます。年中さんが年長さんになるときも同様ですね。

年長さんが小学生になるときは、少しハードルが高くなるかもしれません。でも、朝の挨拶からはじまり、先生とお友達と過ごす日中活動があり、お昼を食べて、帰りの会でおしまい、という集団生活の大きな流れは園生活とあまり変わりはないかもしれません。そんな風に、これまでの園生活で培ってきた体験と結び付けてあげると、初めての環境でも、一歩踏み出す自信になるかもしれません。小学生になると、幼稚園の時のように送り迎えが当たり前、ではなくなるので、あらかじめ学校への道のりなどを何度か一緒に歩いてあげて馴染ませてあげるとよいですね。

家庭生活のルーティン（日課・お決まりの手順）が土台となり、集団生活のルーティンがあって、その上に、その年齢や学年ごとの成長が積みあがっていく、そんなイメージで、新しい春を迎えてみてはいかがでしょうか。子どもたち、ひとりひとりが開花していくのを、今年も一緒に見守ります。

子育て相談室

相談日

毎週火曜日・金曜日
(年末年始、祝祭日を除く)

受付時間

10時～12時
13時～15時



ネット予約は協会ホームページから
(協会HP → 子育て教育相談窓口)

公益社団法人 横浜市幼稚園協会



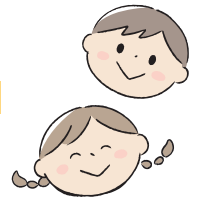
相談員の子育てコラムもぜひご覧ください！ (随時更新中)

- 子どもは育つ！親も育つ！
- 睡眠のお話～お願いだから寝てほしい～
- 子どものケンカ ほか…

(協会HP → 保護者の皆様へ → 子育てコラム)



保護者の会での活動を通して



横浜市幼稚園保護者の会 会長 安西 真依（泉区 平和幼稚園）

日頃より子ども達の成長を全力で守って育てて下さっている先生方・関わっていただいている全ての職員の方々に感謝申し上げます。

昨年5月より始まった私たち保護者の会の活動ですが、コロナ禍ということもあり近年保護者の会自体がないという園も増えてきていますが子育てをする上で保護者が支え合うことも大切と思っていますのでこのような貴重な機会を頂きましたことに大変感謝しております。今受けている保育の無償化や支援などは幼稚園・認定こども園の各園長先生方が行政に掛け合ってくださいましたことによって実現できたことも知ることが出来ましたし、実際私達保護者の会も横浜市会各会派へ保護者目線からの要望を伝えさせていただきました。

今年度の活動ですが、各会派の皆様との意見交換・永年勤続の先生方が表彰される“幼稚園大会”・9月のセミナー開催・3年ぶりとなる1月の新年意見交換会など保護者の会役員5役の皆と共に無事に終えることができました。通っている園も住む場所も違う5人の役員が初めて会った日から今日に至るまで、とても素敵なチームワークができ



横浜市長と新年意見交換会にて（令和5年1月26日）

た！と実感する日々です。今はどんなことも話し合える、そのような仲間に出会えたこと、私は宝物の1つに感じています。それも全てご指導頂きました役員の方、常に温かくサポートをくださった幼稚園協会事務局の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。保護者の会の活動は今後も幼稚園協会と連携をとり、幼稚園との橋渡し役となって子ども達の幸せにつながるよう精一杯活動して参りたいと思います。

そして1人でも多くの方に幼稚園協会・保護者の会の活動について関心を持っていただけたら幸いです。1年間ありがとうございました。

Congratulation

令和4年度 神奈川県私立学校教育功労者表彰

受賞 おめでとうございます



近藤 康弘 先生

学校法人近藤学園 理事長
名瀬幼稚園 園長

※神奈川県私立学校教育功労者表彰
私立学校教育の振興を図るため、私立学校の教職員、校長、園長、理事長及び設置者等を対象として、他の模範となる特に顕著な功績をあげた教育功労者を表彰することを目的とする。

編集後記



早いもので、令和4年度が間もなく終わろうとしています。卒園、進級が間近になり、沢山の経験を積んで成長した子どもたちの姿は、とても遅く輝いて見えます。この一年は、どの園も昨年と同様、コロナの感染対策を行いながらの保育に苦心されたことと思います。また、全国でも園児の人権や安全管理に係わる問題も多く発生し、改めて自園の保育を見つめ直す良い機会になったのではないのでしょうか。幼児の減少傾向が続く中で、国や自治体も子どもに関わる施策に積極的に取り組み始めています。本号に掲載のとおり教育研究大会も無事終了しましたが、これからも協会加盟園は全園が一つになり、内外の動向を見極めつつさらに研鑽を積み、常に幼児教育の意義を問い続けながら新年度を迎えたいと思います。

（広報部 栄区 いいじまひがしこども園

飯島東幼稚園・飯島東保育園 須藤 伊佐夫）